

ここが好き、 やっぱり好き

第6次川島町総合振興計画

(後期基本計画・原案)

令和 7 年 5 月 9 日段階
川島町

※赤字：変更点

1 はじめに

1) 総合振興計画策定の趣旨

I 策定にあたって

II 策定体制

III 計画の構成・期間

IV 本計画と第2期まち・ひと・しごと創生
総合戦略の一体化“

2) 川島町の今（現状）

3) 川島町に必要なこと（課題）

2 基本構想

1) 2030年のまちの姿

2) 基本理念

3) 将来推計人口（川島町人口ビジョン）

4) 川島町の未来へ向けた基盤となる考え方

5) 土地利用構想

6) 計画の推進方法

7) まちづくりの柱（戦略目標の設定）

8) まちづくり総合目標

I 目標の設定

II 策定体制目標の設定理由

3 後期基本計画

1) 基本計画の考え方

2) 後期基本計画の体系（施策大綱）

3) 戦略目標ごとの説明

未来を見据えて 町長メッセージ

1 はじめに

1) 総合振興計画策定の趣旨

Ⅰ 策定にあたって

本町は、昭和47（1972）年に「川島町総合振興計画」を策定し、社会情勢の変化に伴う町民ニーズや課題に対応するため、「第5次川島町総合振興計画」まで、計画を見直しながらまちづくりを進めてきました。

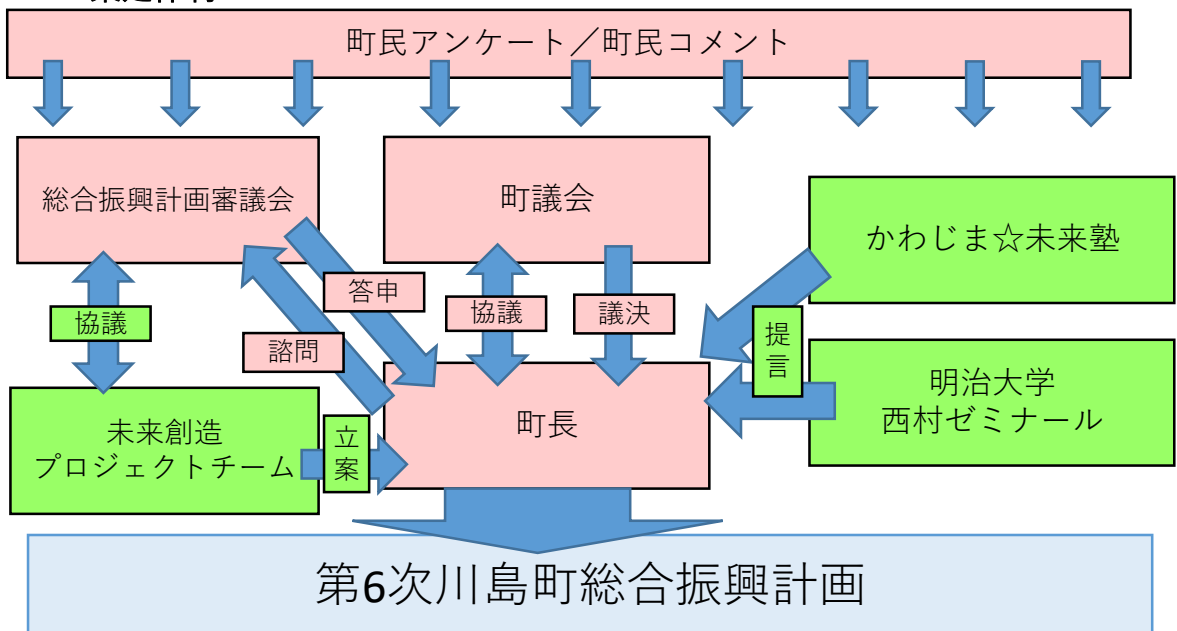
この間、人口減少社会の本格的な到来や少子高齢化の加速化、大規模災害の増加など、本町が乗り越えなければならない課題は年々増加の一途を辿っています。

こうした社会情勢の変化に適応し、10年、20年先も町民の皆さまが安心して過ごせるよう、新たなまちづくりの道標となる「第6次川島町総合振興計画（以下「本計画」という。）」を令和3年度に策定しました。

令和3年度時の本計画の策定にあたっては、「町民アンケート」の実施により町民ニーズの分析を行い、各分野で活躍する委員で構成された「川島町総合振興計画審議会」からの意見や川島町議会議員との協議内容、本計画策定に係る共同研究を行った「明治大学西村ゼミナール」からの研究報告、また、町内で政策研究を行う「かわじま☆未来塾」からの提言などを、職員で構成する「川島町未来創造プロジェクトチーム」が各部署の所管施策との整合性を図りながら、「誰もがわかりやすく、実効性のある計画」となるよう作り上げました。

令和7年度には前期基本計画期間が満了し、それまでの取組成果を踏まえ、基本構想及び基本計画の見直しを図り、本計画を策定しました。

Ⅱ 策定体制



III 計画の構成・期間

基本構想

基本構想は、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度まで10年間を展望し、まちづくりの方向性や将来像を示したものです。

基本計画

基本計画は、基本構想の計画期間を前半5年間と後半5年間に分け、それぞれの期間で将来像の実現に向けた各施策の方向性、目標などを示したものです。

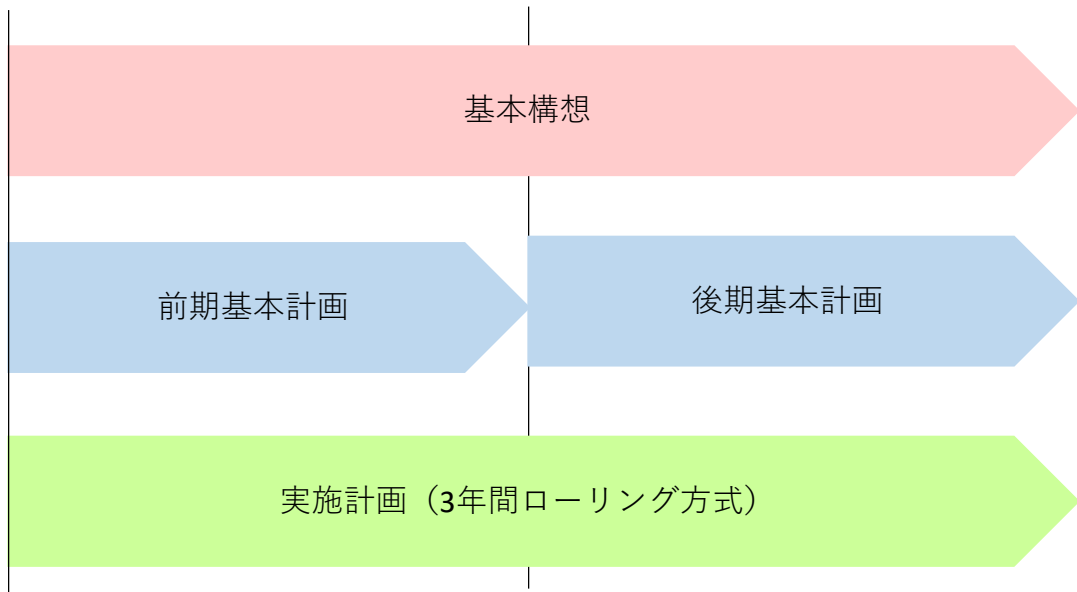
実施計画

実施計画は、基本計画で示す施策の効果的な実現に向けた具体的な事業を示すものです。計画期間を3年間とし、1年ごとに財政状況を基に内容を見直した上で公表します。

令和3（2021）年度

令和7（2025）年度

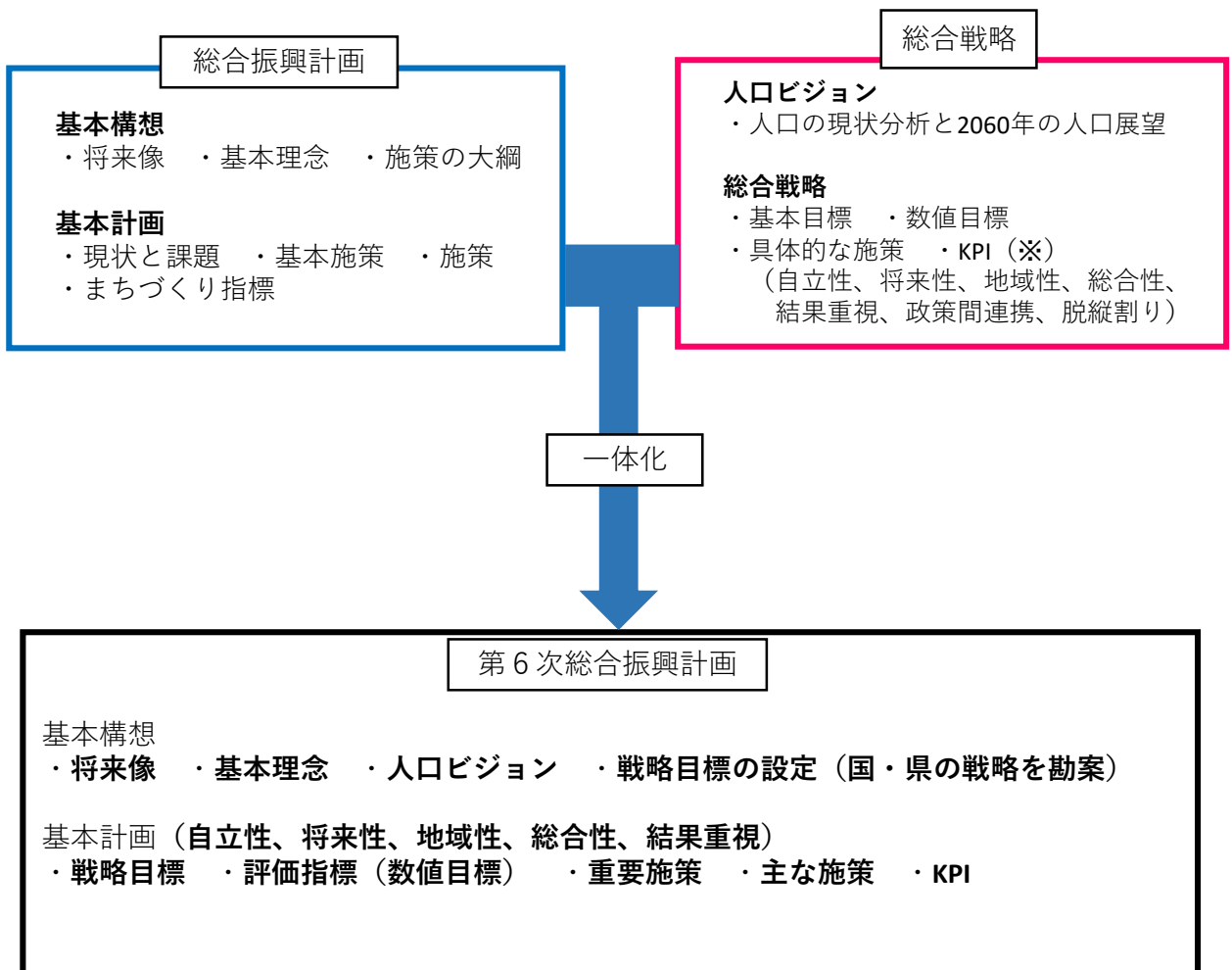
令和12（2030）年度



Ⅳ 本計画と第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の一体化

本計画は、町の最上位計画であり、総合的かつ計画的な町政運営を図るための計画です。

一方、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、少子高齢化と人口減少に的確に対応し、町が将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるための計画です。両計画は、まちづくりの今後を考えるにあたって共通した考え方を持つことから、それぞれ個別に策定するのではなく、一体的に策定することとします。



※Key Performance Indicator (重要業績評価指標) の略で、施策ごとの進捗状況を検証する指標のこと。

2) 川島町の今（現状）

次の指標を基に町の現状を把握し、問題点などを分析します。

	現状把握の指標	過去数値		現状値	問題点等の分析
1	人口減少社会減（転出超過）	社会増減△135 自然増減△119 (2014)	社会増減△216 自然増減△162 (2020)	社会増減△57 自然増減△258 (2023)	人口減少に歯止めがかからない。若い世代が就職を機に町を離れてしまう。
2	老年人口（高齢化の進行）	5,771人 (2014)	6,967人 (2020)	7,103人 (2024)	急速な高齢化により社会が変化していく。
3	交流人口	53,000人 (2015)	56,177人 (2019)	28,000人 (2024)	観光流入が伸びず経済が活性化していない。
4	昼夜間人口比率	92.9% (2010)	103.1% (2015)	112.3% (2020)	雇用の創出等により、町外者の日中滞在が増加している。
5	小中学生の人数	1,490人 (2016)	1,243人 (2020)	1,062人 (2025)	適正な学校規模の確保ができるか懸念される。 将来的な生産年齢人口の減少が懸念される。
6	農地集積率	1.9% (2016)	33.0% (2020)	41.6% (2024)	集積が進み農業経営の効率化が期待される。
7	農業就業者	1,348人 (2000)	671人 (2015)	645人 (2020)	継承者が減少し、衰退が進んでいる。
8	農業生産算出額	22.3億円 (2014)	21.6億円 (2019)	18億円 (2021)	※担い手減少等に伴い、農業生産算出額が減少している。生産者一人あたりの算出額は増加しているものの、農業生産算出額は減少している。
9	商工業就業者	10,018人 (2009)	11,025人 (2016)	12,671人 (2021)	従業員数の増加による地域経済の活性化が期待される。

※現状値：最終版については、最新の数値を記載予定

2) 川島町の今（現状）

次の指標を基に町の現状を把握し、問題点などを分析します。

	現状把握の指標	過去数値		現状値	問題点等の分析
10	福祉ボランティアの人数	24人 (2015)	26人 (2020)	55人 (2024)	需要に対して十分なボランティアがいない。
11	国民健康保険年間医療費	2,055,044千円 (2016)	1,958,899千円 (2020)	2,087,526千円 (2023)	国民健康保険加入者は減少しているが、医療費は増加傾向にある。健康長寿の取組により、医療費が抑制傾向にある。
12	小中学生の学力（県平均以上の教科数）	2/14教科 (2015)	3/14教科 (2020)	1/14教科 (2024)	学力が伸びた児童生徒の割合は増加しているものの、県平均を下回っている。
13	情報教育充実への意識	7.3% (2015)	21.7% (2020)	11.5% (2024)	デジタル化に対する意識が薄くなっている。デジタル化など情報教育への期待が高まっている。
14	避難行動要支援者数	670人 (2016)	1,064人 (2019)	910人 (2024)	災害の際に不安を抱える要支援者が多数いる。災害の際に不安を抱える要支援者が増加している。
15	川島町HPのアクセス数	177,267件 (2015)	738,633件 (2020)	1,281,678件 (2024)	閲覧数が年々増加している。モバイルによるアクセスも増加している。 (66.563.6%)
16	マイナンバーカード普及率	6.7% (2016)	21.1% (2020)	81.5% (2024)	取得率全国平均77.6%より、町取得率が高い。普及を進めるとともに、行政サービスのデジタル化を推進する必要がある。—(全国77.620.2%)—
17	経常収支比率	82.9% (2014)	85.6% (2019)	88.9% (2024)	人件費や扶助費などの義務的経費の増加が見込まれている。 町の財政は概ね健全に運営されている。

※現状値：最終版については、最新の数値を記載予定

3) 川島町に必要なこと（課題）

現状分析を基に、まちづくりの課題を次のとおり再設定します。

①持続可能なまちづくり

- ・ 町民、事業者、町・県・国の協働による災害対策
- ・ SDGs（※）に対応した循環型社会の形成
- ・ 誰もが安心して暮らせる地域福祉の環境整備
- ・ 町民の移動に対する利便性の向上
- ・ 公共施設の中長期的な視点に基づく運用

※Sustainable Development Goalsの略で、国際社会共通の持続可能な開発目標のこと。

②つながり（コミュニティ）の強化

- ・ 気軽に集える場や機会の創出
- ・ 生涯にわたり活躍できる場の創出
- ・ 多文化共生に向けた環境整備
- ・ 多様な媒体による効果的な情報共有
- ・ マイナンバーカードの活用促進普及徹底

③新たな価値の創出

- ・ 町の将来を見据えた戦略的な土地利用（地域活性化、空き家活用等を含む）
- ・ 地域産品の流通網の多様化
- ・ 観光拠点の結びつき強化
- ・ 新たな関係人口の創出

④教育・子育ての推進

- ・ 子育て支援環境の拡充
- ・ ICT（※）を活用した情報教育の充実
- ・ 誰もがいきいきと学習できる機会の提供

※Information Communication Technologyの略で、通信技術を活用したコミュニケーションのこと。

⑤政策間・広域連携の強化

- ・ 社会情勢の変化に柔軟に対応できる業務体制の整備
- ・ 多様な住民ニーズを捉えた政策の立案
- ・ 国や県、近隣自治体と連携した効率的・効果的な事業推進

2 基本構想

現状分析に基づき設定された課題の達成に向け、まちづくりの方向性や将来像となる「基本構想」を、次のとおり整理します。

1) 2030年のまちの姿

計画期間終了時の本町の将来像を次のとおり設定します。

①安全・安心な暮らしが未来へ続く希望のあるまち

自然が豊かで安心して暮らせる地域社会が守られ、町民に寄り添った持続可能な行政サービスが提供されています。

■将来像実現のキーワード「守る、持続」

②人と人との温かいつながりを感じることができるまち

様々なコミュニティやSNSなどのコミュニケーションの手段を活用し、町民一人ひとりが豊かな人間関係を築いています。

■将来像実現のキーワード「つながり、町民一人ひとり」

③元気な産業と働く人の活力に満ちあふれたまち

町の特徴を活かした産業が新たな雇用や関係人口を創出し、にぎわいや活力をもたらしています。

■将来像実現のキーワード「創出、地域経済」

④未来へはばたく人財が育つまち

充実した教育環境により、町民一人ひとりが互いに称え合い、高め合う文化が醸成されています。

■将来像実現のキーワード「育てる、教育、人財」

2) 基本理念

「ここが好き、やっぱり好き」

地域の明日に必要なものは、この地に根差した愛着と誇りです。今住んでいる方にとっては、日々の暮らしの中で「好き」を感じるまち。他のまちに移り住んだ方にとっては、町外に住んではじめてわかる「好き」を感じるまち。そして、今後新たに住む方にも「好き」と思ってもらえるまち。どの場合も、川島町が「好き」だからこそ、その良さを伝えていくことができます。

このように、川島町に関わる方々がこのまちに愛着と誇りを持ち、それぞれの夢を実現するまちをみんなで築いていきたいという想いを表したものです。



表紙イラストについて

これは、町民の方から寄せられた「川島町の好きなところ」をイラスト化したものです。「ここが好き」という一瞬を一枚のイラストにまとめ、第6次川島町総合振興計画の基本理念「ここが好き、やっぱり好き」を表現しています。

2 基本構想

3) 将来推計人口（川島町人口ビジョン）

本町の総人口は、平成12（2000）年の23,732人をピークに減少を続けています。少子高齢化を背景とした人口減少は全国的な傾向であり、本町としても避けられない状況です。

こうした状況の中、令和2(2020)年に策定した「川島町人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）」では、令和7（2025）年の人口を19,318人と予測しましたが、少子化や転出超過が想定を上回り、現状では〇〇〇人となっています。（※令和7年度10月1日段階の人口記入予定。（住民基本台帳 令和6年10月1日現在：18,733人）（表1）

このような本町の現状を踏まえつつ、本計画における将来推計は、インター南側開発をはじめとする各種施策の展開により、生産年齢人口の増加及び合計特殊出生率が向上することを見込み、令和12（2030）年の推計人口を、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計を上回る、17,766人としました。（表1）

また、2060年までの長期的な人口の将来展望を示す人口ビジョンにおいても、推計人口は社人研の推計を上回る11,906人としました。（表2）

表1 人口推移と将来推計等

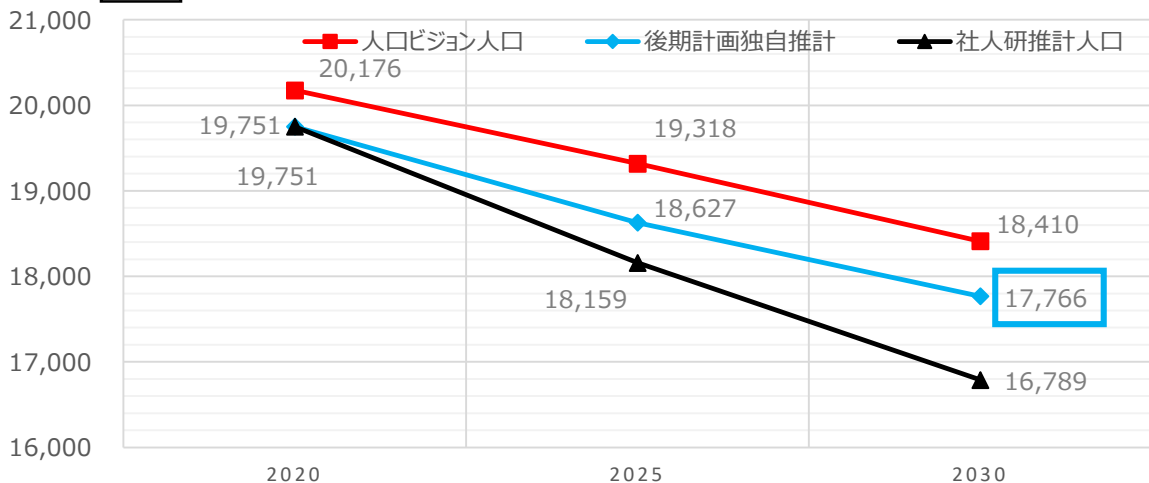
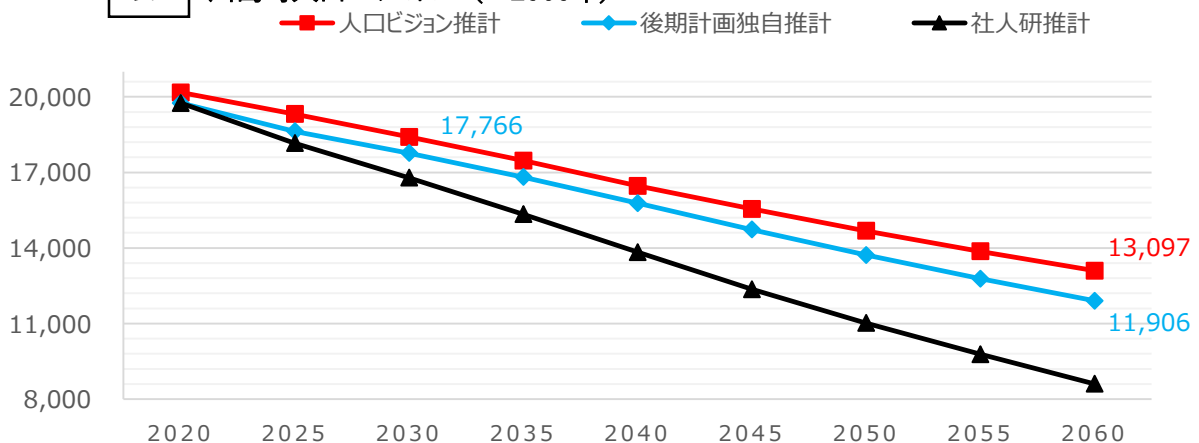


表2 川島町人口ビジョン（～2060年）



2 基本構想

4) 川島町の未来へ向けた基盤となる考え方

社会の変化に対応するため、次の取組を町政運営の基盤とします。

●SDGsの実現に向けた取組の推進

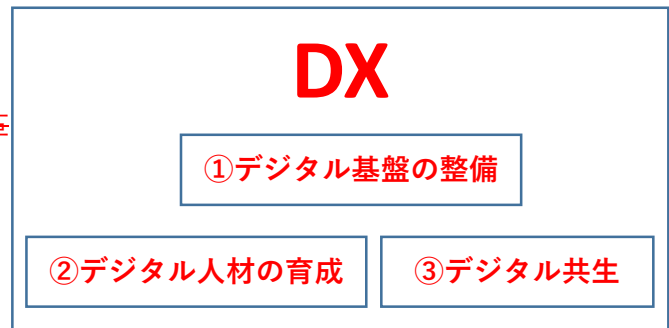
次の世代のことや本町を取り巻く社会情勢の変化などを予測しつつ、長期的、多角的な視点で持続可能で多様性のあるまちづくりを進めます。



●デジタル・トランスフォーメーション（※）の推進

行政のデジタル化や生活上の様々な分野におけるデジタル化を推進し、誰もが便利で快適に暮らせるまちづくりを目指します行政サービスの改革に取り組めます。

例：行政手続きをオンラインで申請
—(マイナンバーカードのサービス)—



※ICTの浸透により人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること

●ニューノーマル（新しい生活様式）（※）の推進

新型コロナウイルスとの共存を図る「with コロナ」、パンデミック収束の「after コロナ」のそれぞれの段階において、ライフスタイルや価値観など町民ニーズの変化に対応し、ニューノーマルを取り入れた柔軟な取組を推進します。

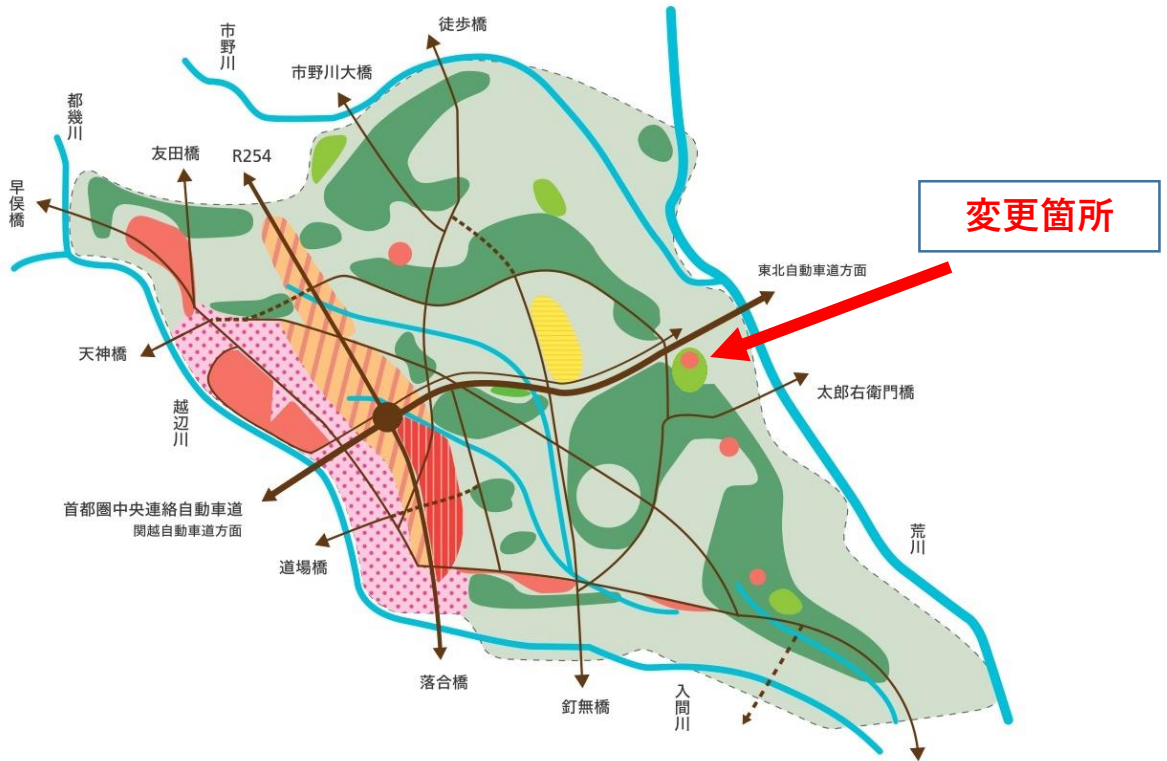
※ここでは、with コロナ・after コロナ時代に求められる新たな生活様式のこと。

2 基本構想

5) 土地利用構想

本計画における土地利用構想図を次のとおりまとめます。

土地利用構想図



凡例

- 首都圏中央連絡自動車道
- 国道254号
- 幹線道路
- 幹線道路(計画)
- 河川・水路

- 住居系地域
- 物流・工業系地域
- インター周辺重点開発地域
- インター周辺開発地域

- 行政系地域
- 公園・緑地系地域
- 農業系地域
- 田園居住系地域

2 基本構想

※IC南側開発の協議に伴い構想図及び文言の変更可能性有

①住居系地域

住宅地については、用途地域にあった土地利用を誘導し、低層住宅地として、調和のある緑豊かな住宅地の形成、潤いのある住環境の形成を図ります。

②物流・工業系地域

既存の工業系地域については、既に工場などの立地が図られており、引き続き保全・整備を推進します。また新たな物流・工業区域を、主要幹線道路沿線などへ整備を推進します。

③インター周辺（重点）開発地域 首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）川島インターチェンジ南側地区を重点的に整備し、その他の地区については、計画的に都市的土地利用を図ります。

④行政系地域

役場庁舎周辺施設の更新・統合等を考慮しながら、今後のまちづくりの核となる地域として総合的な整備を図ります。

⑤公園・緑地系地域

防災機能を有する**高台**・公園、川や池沼を活用した公園などの整備を図り、新たな開発区域への緑地の確保を図ります。また、既存の公園や緑地の保全に努めます。

⑥農業系地域

社会環境などを踏まえ、農業に必要な農地と田園環境を維持するのに必要な農地の保全を図ります。また、農地の集約化を図るなど大規模土地利用農業を推進します。

⑦田園居住系地域

市街化調整区域の既存住宅地内は、周辺環境との調和を図りつつ、良好な景観の維持に努めます。**また、廃校の有効活用を図ります。**

⑧道路

交通量の増大に対応するため、幹線道路については国道254号、圏央道を骨格として、それにつながる県道及び町道の整備・拡充を推進します。

⑨河川・水路

四方を囲む河川は、本町の貴重な自然環境であることから、国や県との連携を図りながら、河川改修を促進するとともに、親水空間などとして活用を図ります。一級河川の安藤川、横塚川などの整備を進め、水のネットワークを保ちながら内水排除の強化を図るとともに、小河川の水質の保全や排水路の整備により、排水対策の充実に努めます。

2 基本構想

6) 計画の推進方法

町民と事業者、町が一体となってPDCAサイクルを一緒に進めることで、協働のまちづくりを推進します。

※ Plan (計画)、Do (実施)、Check (評価)、Action (改善) の4つの視点を推進プロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善に取り組むマネジメント手法のこと。



7) まちづくりの柱（戦略目標の設定）

前述の課題や将来像を踏まえ、次の4項目を「戦略目標」として位置付け、まちづくりの核となる取組とします。

1 まもる「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

国や県との連携により社会基盤を適正に維持・管理し、本町ならではの地域基盤を次の世代に継承し、豊かな自然を将来にわたり伝承します。

2 つなぐ「未来に向けて人と人をつなぐ」

人と人がつながる場を町民と事業者、町が協働で充実させ、居心地が良く、住み続けたいくなるまちづくりを進めます。

3 つくる「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」

地域経済の活性化に向けた取組を充実させ、多様で魅力的な産業により雇用を創出し、町の稼ぐ力を向上させます。

4 そだてる「未来へはばたく人財をそだてる」

魅力的な教育・学習環境により、町民一人ひとりの変化する社会に対応する力を育み、新しい時代で活躍する人財を育成します。

2 基本構想

8) まちづくり総合目標

I 目標の設定

本計画で示す10年間のまちづくりの効果を測定する総合的な目標として、次の評価指標を設定します。

評価指標	住みよさ町民満足度 (※)	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		63.2%	62.0%	66.0%	70.0%

II 目標の設定理由

社会情勢の変化や加速する技術革新、グローバル化を背景に、現在、日本人のライフスタイルは多種多様化しています。このような時代においては、「物質的な豊かさ」よりも「自分の価値観に合った生き方をする」「暮らしの中でいい時間を過ごす」ことに価値観が変化しています。

このため、本計画では、町民の皆さまが自らの希望に応じた多様な生き方を選択し、本町で「満足する時間を過ごす」「心身ともに充実した生活を送る」ことができるよう、様々なまちづくりの取組を示しています。

こうした取組の成果を測定するため、本町独自の評価指標として「住みよさ町民満足度」を設定し、町民の皆さまが心身ともに充実した生活を送っているかを確認していきます。

※令和2年度に実施した「第6次川島町総合振興計画策定のための町民アンケート」における「住みよさ」に関する設問の回答を、以下のとおり点数化した上で平均値を求め、達成度を数値化したもの。これにより、町民の皆さまが川島町に居住することについての程度満足しているかを測定する。

【点数化】

住みよい = 5、どちらかといえば住みよい = 4、ふつう = 3、どちらかといえば住みにくい = 2、住みにくい = 1

【アンケート結果に基づく計算式】

住みよい	118	×	5	=	590	} 2,721
どちらかと言うと住みよい	207	×	4	=	828	
普通	291	×	3	=	873	
どちらかと言うと住みにくい	185	×	2	=	370	
住みにくい (無回答 2)	60	×	1	=	60	

$$2,721 \div 861 \text{ (回答者総数)} = 3.16$$

$$3.16 \div 5 = 0.632$$

$$0.632 \times 100 = 63.2\% \quad \dots \quad \text{令和2年度現状値}$$

3 後期基本計画

1) 基本計画の考え方

○基本計画は、目指すべき方向性、まちづくりの考え方が明確になるよう、戦略目標ごとに体系的にまとめた分野横断的な構成とします。

○後期基本計画の計画期間は、令和8（2026）～12（2030）年度の5年間とします。

○後期基本計画は前期基本計画の評価を踏まえ、施策及び評価指標（目標値）を一部変更します。（※評価指標変更の場合は、2段構成とします。）

2) 基本計画の体系（施策大綱）

基本理念	戦略目標	重要施策	主な施策
ここが好き、 やっぱり好き	まもる 未来に続く安全・安心な暮らしをまもる	①災害に備える環境整備 ②持続可能な循環型社会の実現	自治・コミュニティの振興 消防・防災体制の充実 人権尊重・男女共同参画の推進 交通安全の推進 健康づくりの推進 福祉のまちづくり 障がい者福祉の充実 高齢者福祉の充実 社会保障の充実 ごみ処理適正化の推進 自然環境と共生するまちづくり 緑あふれる安心空間の整備 安心して暮らすための河川の整備 住みよいまちづくり 上下水道の整備・維持管理及び生活排水対策 安全に通行できる道路の整備 持続可能な公共交通網の形成 農地保全と有効利用 公共施設の適正な管理 適正な行財政運営の推進
	つなぐ 未来に向けて人と人をつなぐ	①つどいの場の創出 ②新しい自治体コミュニケーションの推進	多文化共生社会の推進 ふれあいの場の充実 いきがいの創出 青少年の地域参加の推進 新しいつながりの創出 文化財の保護・活用及び伝統文化の継承 デジタル化の推進 広域連携の推進
	つくる 未来へ輝く稼ぐ地域をつくる	①川島インターチェンジ周辺整備の推進 ②地域資源の総動員による稼ぐ力の向上	魅力ある土地利用 地域特性を活かした農業振興 活気ある事業活動の推進 地域資源を活かした観光振興 新たな行政サービスの導入 官民連携の推進
	そだてる 未来へはばたく人財をそだてる	①夢を育む新たな学校づくり ②社会を生き抜く人財の育成	新たな生涯学習の推進体制構築 生きる力を育む学校教育の推進 心と体を育む教育環境の整備・充実 多様な学習機会の充実 子育て支援・児童福祉の充実

3) 戦略目標ごとの説明

○4つの戦略目標の詳細は次の通りです。策定後、事業の進捗により適宜見直しを行いながら施策を推進します。

3 後期基本計画

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

【現状と課題】

近年増加する甚大な自然災害や著しい社会情勢の変化による影響は、本町においても各所で見受けられます。このような状況の中、誰一人取り残すことなく町民の安全・安心な暮らしを守るため、福祉支援制度や社会生活基盤の整備に取り組みます。

特に、いつ起こるかわからない災害への備えを充実させるため、国や県と連携しながら防災設備の強化を図ります。

また、今ある豊かな自然を守り、未来へ継承するため、資源を適正に循環するための体制整備にも取り組みます。

評価指標	住み続けたいと思う町民の割合	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		70.9%	56.1%	72.0%	73.0%

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

重要施策① 災害に備える環境整備

災害から町民を守るため、避難所をはじめとした防災設備の整備や避難体制の充実に努めます。特に、大規模水害の際に町外へ避難することが困難な場合に備え、高台避難場所（※）の整備を進めます。

さらに、町民一人ひとりや地域の災害対策への意識を強化し、自らを守る力の向上を図ります。

関連する代表的な計画：川島町地域防災計画、川島町水防計画、川島町国土強靱化地域計画

※大規模な水害時に緊急的に避難する場所。

【前期・後期計画】

評価指標	高台避難場所の箇所数 (工事着手)	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値(R12)
		計画素案作成	測量・設計	1箇所	2箇所

※大規模な水害時に緊急的に避難する場所。

重要施策② 持続可能な循環型社会の実現

将来にわたり持続可能な町であり続けるために、資源が有効に活用された循環型社会（※）の形成に、町民と事業者、町が一体となって取り組みます。「循環型社会」の構築に向け、大きく変化する社会情勢に対応できる施策として、ごみの減量化をはじめ、各種施策を総合的かつ計画的に推進していきます。

関連する代表的な計画：環境基本計画、一般廃棄物処理基本計画、川島町地球温暖化対策実行計画（事務・事業編）

【前期計画】

評価指標	1人1日当たりのごみ総排出量	基準値(R1)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		947 g / 人・日	891 g / 人・日 (暫定値)	899g / 人・日	865g / 人・日

【後期計画】

評価指標	1人1日当たりの生活系ごみ排出量（可燃ごみ）	基準値(R5)	目標値 (R12)	変更理由
		477 g / 人・日	416g / 人・日	ごみの種類により総排出量は左右されるため、可燃ごみの排出量削減について重点的に取り組む。

※3R (Reduce, Reuse, Recycle) を推進し、環境への負荷を減らす社会



R4答申：可燃ごみを減らしても、資源ごみが増えた場合、総排出量は変わらない。→可燃ごみに焦点をあてた指標とする。

3 後期基本計画

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策1 自治・コミュニティの振興

地域で行われるコミュニティ活動や地域防犯活動などを通して、住みよい暮らしの充実を図ります。また、社会情勢に合わせ、コミュニティ団体などの柔軟な活動や運営の効率化などへの支援、各関係団体との連携を強化することでコミュニティの活性化を促進します。

【前期計画】

評価指標	自治会加入率	基準値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		77%	80%	83%

【後期計画】

評価指標	自治会加入率	基準値(R5)	目標値 (R12)	変更理由
		74.2%	70.0%	実態及び全国的な傾向を踏まえ目標値変更



R4答申：自治会加入率は全国的に下がっている。

主な施策2 消防・防災体制の充実

火災や各種災害に対し、未然に被害を最小限に留めるなどの対策を行い、安全・安心を実感できるまちづくりを推進します。また、地域における自主防災組織（※）の充実を図るとともに、各関係団体との連携を強化し、全体的な防災力の向上を推進します。

※災害時に近隣の人々が互いに協力し合いながら、防災活動に取り組む組織。

関連する代表的な計画：川島町地域防災計画、川島町水防計画、川島町国土強靱化地域計画

【前期計画】

評価指標	地域防災リーダーの人数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		7人	6人	15人	30人

【後期計画】

評価指標	地域防災活動数	基準値(R5)	目標値(R12)	変更理由
		19件	58件	地域全体の活動数を計測することで、防災意識の向上を図る。

※災害時に近隣の人々が互いに協力し合いながら、防災活動に取り組む組織。

3 後期基本計画

主な施策3 人権尊重・男女共同参画の推進

すべての町民がお互いの人権を尊重しながら、共に生きる社会の実現に努めます。また、男女が性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮でき、社会のあらゆる分野で参画する機会が確保され、共に責任を分かち合う男女共同参画社会の実現に努めます。

関連する代表的な計画：川島町人権施策基本方針、川島町男女共同参画推進計画

【前期計画】

評価指標	人権教育に満足していない町民の割合	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値(R12)
		10.9%	16.3%	9.7%	8.5%

【後期計画】

評価指標	固定的性別役割分担に同感しない人	基準値(R5)	目標値(R12)	変更理由
		49%以上	60%以上	男女共同参画に焦点を当てた指標とする。

主な施策4 交通安全の推進

道路反射鏡や道路照明灯などの交通安全施設の設置・点検を推進するとともに、高齢者や、子どもなど交通弱者の安全に配慮した道路交通環境の改善を図ります。また、交通安全に関する知識の普及・啓発、交通安全教育などを推進します。

【前期計画】

評価指標	交通事故発生件数 (人身事故)	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値(R12)
		69件	85件	60件	50件

【後期計画】

評価指標	①ソフト ②ハード	基準値 (R5)	目標値 (R12)	変更理由
	①自転車乗車用ヘルメット着用率	4.5%	21%	自転車乗車用ヘルメットの着用を促進することで、交通安全の普及・啓発につなげる。
	②交通安全施設の年間設置数	25件	25件	交通事故防止対策として交通安全施設を設置する。

3 後期基本計画

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策5 健康づくりの推進

すべての町民が、心も身体も健康に生活できるよう、健診や相談及び医療体制の充実、健康維持のための基盤づくりを推進します。また、町民一人ひとりの健康づくりに対する意識を高め、主体的な健康づくりを推進します。

関連する代表的な計画：川島町健康長寿のまちづくり推進計画、川島町国民健康保険保健事業実施計画、川島町特定健康診査等実施計画、川島町地域福祉計画、川島町高齢者福祉計画・介護保険事業計画

【前期計画】

評価指標	町民の健康寿命 (※)	基準値(H30)	目標値 (R5)	目標値 (R10)
		男性17.47年 女性20.48年 ※R2県発表	男女とも +1年 ※R7県発表	男女とも +2年 ※R12県発表

【後期計画】

評価指標	町民の健康寿命 (※)	基準値(R4)	目標値 (R10)	変更理由
		男性+0.72年 女性+0.8年	男性+2.1年 女性+1.2年 ※R12県発表	評価の実績を踏まえ、 目標数値変更

※65歳に達した町民が健康で自立した生活を送る期間のことで、具体的には「要介護2以上」になるまでの期間

主な施策6 福祉のまちづくり

町民がお互いを理解し尊重し合うことができるよう、福祉に関する教育を充実し、心のバリアフリーを進めます。また、地域福祉の担い手を育成するとともに、地域福祉活動を行う団体の活動を支援し、地域で支え合う取組の活性化を図ります。

関連する代表的な計画：川島町地域福祉計画

【前期・後期計画】

評価指標	福祉ボランティアの人数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		26人	55人	50人	70人

3 後期基本計画

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策7 障がい者福祉の充実

障がいのある方が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、自立した生活への支援のため、福祉サービスの充実を図ります。また、地域内の福祉資源を活用し、学習の場の充実、社会参加活動及び就業・就労を促進します。

関連する代表的な計画：川島町障がい者計画・川島町障がい福祉計画・障がい児福祉計画

【前期計画】

評価指標	地域生活支援拠点（※）の利用者数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		設置準備	設置要綱作成	10人	20人

【後期計画】

評価指標	専門的な人材の養成研修等の開催数	基準値(R5)	目標値(R12)	変更理由
		4回	6回	専門的な人材の育成により、障害福祉の充実を図る。

※障がい者の地域生活や自立を支えていくための機関



R4答申：目標が曖昧

主な施策8 高齢者福祉の充実

介護が必要になっても、誰もが、できる限り住み慣れた地域社会で暮らし続けることができるよう、地域包括支援センター（※）を中心に、医療、介護、介護予防、生活支援などの関係者が連携し、高齢者を地域で支える体制の充実を図ります。

関連する代表的な計画：川島町高齢者福祉計画・介護保険事業計画

【前期・後期計画】

評価指標	支え合いの場（※）の開催回数	基準値(R1)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		115回	112回	170回	230回

※地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止などを総合的に行う機関。

※町民同士の支え合い活動への発展が期待される地域のつどいの場

3 後期基本計画

主な施策9 社会保障の充実

介護保険の理念・内容の普及・啓発、適切な運営のため介護サービスの適正給付に努めます。

また、国民健康保険は、特定健診の受診率向上に努めることによる医療費の適正化により、持続可能な運営に向けた取組を推進します。さらに、国民年金制度の周知を行い、理解を深めてもらえるよう努めます。そして、生活困窮者支援を推進するため、関係機関と連携し総合的な相談に応じます。

関連する代表的な計画：川島町国民健康保険保健事業実施計画、川島町特定健康診査等実施計画
川島町地域福祉計画、川島町高齢者福祉計画・介護保険事業計画

【前期計画】

評価指標	国民健康保険健康診断受診率	基準値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		42.8%	60.0%	60.0%

【後期計画】

評価指標	国民健康保険健康診断受診率	基準値(R5)	目標値 (R12)	理由
		51.8%	60.0%以上	国の計画変更に伴う目標値変更

主な施策10 ごみ処理適正化の推進

町内で発生するごみを抑制するとともに、プラスチックごみの削減等、ごみの減量・再資源化をすることにより、円滑な資源循環の実現を目指します。また、**桶川市と広域による**廃棄物処理施設の整備など、高齢社会の進展や自然災害等にもしなやかに対応できるごみ処理体制の構築を図り、町の豊かな自然環境と安全で快適な生活環境を守ります。

関連する代表的な計画：一般廃棄物処理基本計画、川島町災害廃棄物処理計画

【前期計画】

評価指標	ごみ処理施設整備計画の進捗	基準値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		ごみ処理事業検討開始	ごみ処理事業方式の決定	ごみ処理施設の整備

【後期計画】

評価指標	ごみ処理施設整備計画の進捗	基準値(R5)	目標値(R12)	変更理由
		ごみ処理基本計画、施設整備基本構想(案)の策定	ごみ処理施設の整備(44%)	進捗率が確認できるよう数値目標を設定した。

3 後期基本計画

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策11 自然環境と共生するまちづくり

町の望ましい環境像、持続可能な社会の実現に向けて、町民と事業者、町がそれぞれの役割分担と責任のもと、相互に協力しながら、地球環境の負荷低減のため、温室効果ガス排出量の削減を目指し、地球温暖化をふせぐまちづくりを進めます。また、次世代における環境問題解決の担い手となる児童・生徒への環境教育について、より一層の充実を図り、環境にやさしい行動を理解し、実践できる人を育てます 関連する代表的な計画：環境基本計画、川島町地球温暖化対策実行計画（事務・事業編）

【前期計画】

評価指標	公共施設等におけるCO ₂ 排出量削減率（H28比）	基準値(R1)	目標値（R7）	目標値（R12）
		9%削減	20%削減	25%削減

【後期計画】

評価指標	公共施設等におけるCO ₂ 排出量削減率（H28比）	基準値(R5)	目標値（R12）	理由
		-4.4%	50%削減	公共施設LED化のため、目標値変更

主な施策12 緑あふれる安心空間の整備

安全に公園が利用できるように、適切な維持管理をし、にぎわいのある公園・緑地の整備を進めます。また、町民が愛着を持って関わることのできる緑化活動などを推進します

【前期計画】

評価指標	公園・緑地整備に対する満足度	基準値(R2)	目標値（R7）	目標値（R12）
		25.3%	28.0%	30.0%

【後期計画】

評価指標	公園・緑地整備に対する満足度	基準値(R5)	目標値（R12）	理由
		31.0%	40.0%	R7目標達成済のため、最終目標変更

3 後期基本計画

戦略目標 1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策13 安心して暮らすための河川の整備

災害対策として河川の堤防強化を促進するとともに、流下能力や遊水・貯留機能の向上など、治水対策を着実に推進することや、冠水被害の防止を図るため、用排水路整備を進めます。また、小規模河川の水質の保全や、町民の憩いの場としての親水空間（※）の整備に努めます。

【前期計画】

評価指標	用排水路整備に対する満足度	基準値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		13.6%	20.0%	30.0%

【後期計画】

評価指標	用排水路整備に対する満足度	基準値(R5)	目標値 (R12)	理由
		17.0%	25.0%	評価の実績を踏まえ、目標数値変更

※ 水や川に触れることで親しみを深める空間

主な施策14 住みよいまちづくり

バリアフリー、省エネルギー、耐震対策、空き家の適正管理や利活用など、時代に適合した住宅建設などを促進するとともに、町の景観に適した、誰もが住み続けたいとなるような住宅取得・住環境創出を支援します。

【前期計画】

評価指標	住宅リフォーム・耐震等制度利用件数	基準値 (R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		74件	121件	147件

【後期計画】

評価指標		基準値(R2)	現状値 (R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)	理由
	① 住宅リフォーム・耐震等制度利用件数	74件	142件	152件	191件	R7目標達成のため、最終目標変更
	② 空き家活用件数	—	9件	15件	40件	空き家適正管理により「住みよいまちづくり」を実実現する。

3 後期基本計画

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策15 上下水道の整備・維持管理及び生活排水対策

将来にわたり持続可能な水道事業の運営と水道水の安定供給を図るため、管路（※）の整備や更新などを進め、下水道事業では、市街化区域内の雨水幹線の整備と管路の適切な維持管理などを行い、安定的な事業運営に努めます。また、町内で発生したし尿・浄化槽汚泥は、処理施設で適正に処理を行い、河川などへの環境負荷を低減します。合併処理浄化槽の設置については、普及率の向上と単独処理浄化槽からの転換促進を図りながら、維持管理の徹底により、適正な生活排水対策を推進します。

※水道・下水道管など地下に埋設している専用の管。

関連する代表的な計画：川島町水道事業ビジョン、川島町公共下水道事業計画、川島町一般廃棄物処理基本計画

【前期・後期計画】

評価指標	飯島雨水幹線整備進捗率	基準値(R2)	現状値(5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		68.5%	71.7%	71.0%	75.0%

※水道・下水道管など地下に埋設している専用の管。

主な施策16 安全に通行できる道路の整備

圏央道と国道254号を骨格とした利便性の高い交通網を形成するよう、町内の道路整備を計画的に進めます。また、歩道や交通安全施設の整備など誰もが安全に通行できる道路整備を推進します。

【前期計画】

評価指標	幹線町道における歩道設置率	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		32.9%	32.9%	33.4%	34.0%

【後期計画】

評価指標	生活道路、歩道などの道路に対する満足度	基準値(R5)	目標値 (R12)	変更理由
		20.0%	23.5%	町全体の安全な道路環境の整備を図る。



R4答申：評価の考え方が事業内容で判断しづらい。
R6答申：一般町道の整備率も踏まえて検討。

3 後期基本計画

戦略目標 1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策17 持続可能な公共交通網の形成

バスやタクシーなどの公共交通サービスを将来にわたり持続可能なものとするため、交通事業者と連携しながら効率的な交通ネットワークの構築を進めます。また、地域内の輸送資源を総動員し、既存の公共交通を補完するサービスの導入を促進します。

関連する代表的な計画：川島町地域公共交通網形成計画

【前期・後期計画】

評価指標	公共交通に対する満足度	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		7.4%	9.1%	10.7%	11.1%

主な施策18 農地保全と有効利用

営農環境を維持・改善するため、農地中間管理機構(※1)による担い手への農地集積を推進し、農地の基盤整備(※2)を実施します。また、農地が保有する多面的機能(※3)が維持発揮されるよう地域活動を支援します。さらに、農地の保全と有効利用を図るため、農業委員会と連携し耕作放棄地の発生防止に向けた取組を推進するとともに、農地の貸借を仲介し、農地の有効利用を図ります。

関連する代表的な計画：川島町農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想、川島農業振興地域整備計画、川島町田園環境マスタープラン

【前期計画】

評価指標	農地集積面積	基準値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		692ha	800ha	850ha

【後期計画】

評価指標	農地集積面積	基準値 (R5)	目標値 (R12)	理由
		820ha	900ha	R7目標達成済のため、最終目標変更

※1 平成26年度に全都道府県に設置された「信頼できる農地の中間的受け皿」のこと。

※2 水田や畑地を区画整理し、農道・排水路・かんがい排水施設の整備などを総合的に行うこと。

※3 洪水防止機能などの様々な役割（機能）。

3 後期基本計画

戦略目標1 まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

主な施策19 公共施設の適正な管理

公共施設の利用需要の変化や今後の厳しい財政状況を踏まえ、公共施設の適正な運用を図ります。また、公共施設全体の状況を把握し、長期的な視点による更新・統廃合・長寿命化を計画的に推進します。

関連する代表的な計画：川島町公共施設等総合管理計画、川島町個別施設計画

【前期・後期計画】

評価指標	延床面積総量削減率(H28比)	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		1.7%削減	2.4%削減	3.0%削減	15.2%削減

主な施策20 適正な行財政運営の推進

社会情勢の急激な変化に対応し、持続可能なまちづくりを推進するため、財源の確保や費用対効果を踏まえた効率的な行財政運営に取り組みます。また、まちづくりを支える職員は、適正な職員数を維持し、計画的な人材育成を図ります。

関連する代表的な計画：川島町人材育成基本方針、川島町定員適正化計画

【前期・後期計画】

評価指標	経常収支比率	基準値(R1)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		85.6%	88.9%	85.0%	85.0%

3 後期基本計画

戦略目標2 つなぐ 「未来に向けて人と人をつなぐ」

【現状と課題】

日常生活におけるコミュニティは、町民同士が助け合って生活を営む基盤であるとともに、災害時などの安全・安心の確保において重要な役割を担っています。

しかし、近年、少子高齢化の進行に加え、ライフスタイルの多様化により地域コミュニティの希薄化が顕著になっています。

このため、町民同士がつながることができる場を多角的に整備し、居心地の良さや生きがいを感じて暮らすことのできるまちづくりを進めます。

評価指標	まちづくりの町民参加の促進に関する満足度	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		10.7%	13.1%	15.0%	20.0%

3 後期基本計画

重要施策① つどいの場の創出

ライフスタイルの多様化により地縁を核にしたコミュニティが大きく変化しています。従来の関係性だけにとどまらず、公共施設等を活用し、地域活動センター（※）など多様なつどいの場を設けることで、日々の生活に充実感や安心感を与えることができるコミュニティづくりに取り組みます。

※仮称。町民の交流など地域活動の拠点。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町生涯学習推進総合計画、川島町地域福祉計画

【前期計画】

評価指標	地域学校協働活動参加者数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		1,404人	3,235人	4,752人	5,184人

【後期計画】

評価指標	川島町地域活動センターの設置及び施設利用者数	基準値(R5)	目標値(R12)	変更理由
		検討委員会の開催	20,000人	新たな取組を実施することから、評価指標を変更する（令和7年度設置予定）

重要施策② 新しい自治体コミュニケーション（※）の推進

情報媒体の多様化に対応し、町民に効果的に情報を発信するため、新たな情報発信ツールの活用を推進します。また、協働のまちづくりを推進するため、町民が町に意見を届ける方法を拡充し、効果的・効率的なコミュニケーションを図ります。

【前期計画】

評価指標	かわじま☆未来塾によるまちづくり活動数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		40回	8回	100回	150回

【後期計画】

評価指標	かわじま☆未来塾生数（累計）	基準値(R5)	目標値(R12)	変更理由
		18人	100人	未来塾生数を測定し、協働でまちづくりに関わる人の増加を図る。

※地方自治体と住民・事業者等の間で行われる政策や施策に関する広報・広聴活動。



R4答申：追加の評価指標を要検討

3 後期基本計画

戦略目標2 つなぐ 「未来に向けて人と人をつなぐ」

主な施策1 多文化共生社会の推進

多様な文化を受け入れ、共生する意識を深めることで、外国籍の町民が安全・安心に暮らせる環境を整えていきます。また、地域の国際交流機会の充実を図り、町民のグローバル意識や関心を高めます。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町生涯学習推進総合計画

【前期・後期計画】

評価指標	町内在住外国人と地域住民との交流事業実施回数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		1回	2回	2回	3回



R6答申：事業実施主体団体と調整の上、実現可能性がある目標値の設定を検討

主な施策2 ふれあいの場の充実

町民と協力して各地区に、子どもや障がいのある方、高齢者など地域のすべての方が気軽に集まれる小さな拠点を、公共施設、集落センター等を利用して増やします。町民同士のふれあいによる地域コミュニティの活性化と世代間交流を促進するとともに、地域で支え合う仕組みを構築します。

【前期・後期計画】

評価指標	通いの場・小さな拠点の箇所数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		31箇所	39箇所	47箇所	57箇所

3 後期基本計画

戦略目標2 つなぐ 「未来に向けて人と人をつなぐ」

主な施策3 いきがいの創出

町や町内企業における高齢者や障がいのある方、外国籍の方の雇用を関係機関とともに促進し、働くことによるいきがいの創出を目指します。また、生涯学習や生涯スポーツ、地域活動に自発的に取り組むことができるよう、活動環境の整備を推進し、誰もが生涯を通じて活躍できる社会を実現します。

【前期・後期計画】

評価指標	地域におけるコミュニティ活動への満足度	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		11.1%	14.2%	16.0%	20.0%

主な施策4 青少年の地域参加の推進

次代を担う青少年が心身ともに健やかに成長するため、家庭や学校、地域社会が一体となって活動するとともに、活動団体を支援し、推進体制の充実を図ります。非行防止の推進を図るためのパトロール活動を行い、青少年が地域社会に関わりを持つためのボランティア体験や事業の充実を図り、青少年の社会参加活動を推進します。

【前期・後期計画】

評価指標	子育て支援総合センターにおける中高生参加事業数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		0件	1件	2件	4件

3 後期基本計画

戦略目標2 つなぐ 「未来に向けて人と人をつなぐ」

主な施策5 新しいつながりの創出

地域の課題解決や地方創生の推進に向けた裾野を拡大するため、町に多様な形で継続的に関わる「関係人口」を創出・拡大します。この関係人口をはじめとした多様なつながりを促進するため、あらゆる情報媒体を幅広く活用し、積極的な情報共有を図ります。

【前期・後期計画】

評価指標	ふるさと納税寄附件数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		2,616件	2,930件	5,000件	10,000件



R5答申：寄附金額の指標追加について要検討

主な施策6 文化財の保護・活用及び伝統文化の継承

文化財を保護・活用するとともに、町の歴史・文化を学ぶことができる「郷土資料館」を、既存施設内に開設することで、伝統文化を継承し、郷土を愛し、誇りに思う心を醸成します。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町生涯学習推進総合計画

【前期計画】

評価指標	郷土資料館来館者数	現状値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		開設準備	開設	500人

【後期計画】

評価指標	郷土資料館来館者数	基準値(R5)	目標値 (R12)	理由
		731人 (開設済)	1,000人	R7目標達成済みのため最終目標変更



R4答申：目標が曖昧。評価の細分化を要検討。

3 後期基本計画

戦略目標2 つなぐ 「未来に向けて人と人をつなぐ」

主な施策7 デジタル化の推進

町民の利便性向上や行政運営の効率化を図るため、**行政サービスの行政手続きのデジタル化を推進**します。情報セキュリティ対策を徹底した上で、**新たなテクノロジー活用を推進し、行政サービスの改革に取り組み、**デジタル・トランスフォーメーション（DX）の実現を図り、**新しい価値の創出に取り組みます。**

関連する代表的な計画：川島町DX推進計画

【前期計画】

評価指標	マイナンバーカード交付率	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		21.1%	81.53%	85.0%	90.0%

【後期計画】

評価指標	行政事業への新たな技術導入数	基準値 (R2)	現状値 (R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)	変更理由
		計画策定準備	5件	7件	10件以上	前期基本計画「戦略目標 つくる 主な施策 5 新たな行政サービスの導入」と統一



R6答申：申請件数を指標にする場合、町の全申請件数を把握の上、割合により達成率を測るよう検討すること。

主な施策8 広域連携の推進

国や県からの権限移譲を推進し、町の自立性を高めることで行政運営の効率性を高めます。また、近隣自治体との連携を強化し、効果的・効率的な事業の実施を図ります。さらに、社会情勢の変化に対応した新たな連携について研究を進めます。

【前期計画】

評価指標	広域連携による事業数	基準値(R1)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		16事業	15事業	20事業	25事業

【後期計画】

評価指標	広域連携による新規事業数（累計）	基準値(R5)	目標値 (R12)	変更理由
		0事業	5事業	新規事業数を測定することで、広域行政の新たな連携を図る。



R6答申：新規事業件数に、内数として、見直し事業数を含めることを検討すること。

3 後期基本計画

戦略目標3 つくる 「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」

【現状と課題】

本町における産業振興は、長年基幹産業として位置付けられてきた農業をはじめ、圏央道川島インターチェンジ周辺地区開発による企業誘致など、社会情勢の変化に伴う多角化が進んでいます。

町の持続的な発展のためには地域経済の活性化が不可欠です。町の特性を活かし、特産品や農地など地域資源の総動員による「稼ぐ力」のさらなる向上に向け、官民が連携した魅力的なビジネスの創出に取り組みます。

評価指標	町内総生産額	現状値(H30)	現状値(R3)	目標値(R5)	目標値(R10)
		90,614 百万円 ※R2県発表	116,802 百万円 ※R3県発表	107,031 百万円 ※R7県発表	113,345 百万円 ※R12県発表

3 後期基本計画

戦略目標3 つくる 「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」

重要施策① 川島インターチェンジ周辺整備の推進

※調整中：変更可能性有

圏央道川島インターチェンジを有する立地優位性を活かし、地域経済の活性化と雇用創出の核となる企業集積の基盤として、川島インターチェンジ南側地区の整備・拡充を推進します。また、企業誘致を積極的に推進するとともに、関係自治体との連携を図り、地域産業全体の強化につなげます。

関連する代表的な計画：川島町都市計画マスタープラン

【前期・後期計画】

評価指標	工業用地の拡大面積	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		約90ha	約90ha	約90ha	約159ha

重要施策② 地域資源の総動員による稼ぐ力の向上

町内に点在する地域資源を最大限に活用し、相乗効果の発揮による地域経済の活性化を図ります。また、かつての基幹産業である農業を再興するため、スマート農業(※)の導入などにより農業の効率化を図り、経済性の向上を図ります。

【前期・後期計画】

評価指標	地域商社会員数（個人・法人）	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		設立準備	93	400	650

※IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）などを活用した次世代型農業。

3 後期基本計画

戦略目標3 つくる 「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」

主な施策1 魅力ある土地利用

無秩序な開発を抑制し、住宅地、商業地、工業地、公園、緑地など計画的に土地利用を行い、魅力あるまちづくりを進めるとともに、川島インターチェンジ周辺についても、効果的な土地利用を図ります。

関連する代表的な計画：川島町都市計画マスタープラン

【前期・後期計画】

評価指標	市街化区域内の宅地化率	現状値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		約92%	約92%	約93%	約94%

主な施策2 地域特性を活かした農業振興

新たな担い手となる、認定新規就農者（※）や農業参入を目指す企業などの効率的かつ安定的な農業経営の実現のため、農地集積、生産現場での先進技術の活用支援などを実施します。

また、特産品のブランド化などに向けた取組を支援するとともに、観光農園の整備などにより、農業と触れ合う機会を提供します。

※就農希望者のうち、農業経営基盤強化促進法に基づき市町村から就農計画の認定を受けたもの。

関連する代表的な計画：川島町農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想、川島農業振興地域整備計画、

川島町田園環境マスタープラン

【前期計画】

評価指標	認定新規就農者数（累計）	基準値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		12人	14人	16人

【後期計画】

評価指標	認定新規就農者数（累計）	基準値(R5)	目標値 (R12)	理由
		18人	33人	R7目標達成済のため、最終目標変更

※就農希望者のうち、農業経営基盤強化促進法に基づき市町村から就農計画の認定を受けたもの。

3 後期基本計画

戦略目標3 つくる 「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」

主な施策3 活気ある事業活動の推進

民間企業や団体が円滑に事業活動を展開できるよう、産業基盤の整備や販路開拓などの経営支援を実施し、地域商工業の活性化を図ります。また、関係機関と連携し、人材育成・求人ニーズの円滑なマッチングなど町の産業活力を支える人材の確保に努めます。

【後期計画】

評価指標	商工会会員数	現状値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		505	565	555	605

【後期計画】

評価指標	商工会会員加入率	基準値(R5)	目標値 (R12)	変更理由
		64.6%	76.0%	事業者数が減少しているため、加入率で計測する。

主な施策4 地域資源を活かした観光振興

平成の森公園や地域資源を活用した観光拠点を整備し、周遊ルートの開発を進めることで町内の回遊性を高め、交流人口の拡大及び消費を促進します。また、観光振興やまちづくりを推進する団体の設立や、先導的な人材の育成・確保に取り組みます。

【前期計画】

評価指標	交流人口	基準値(R1)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		56,177人	70,000人	90,000人

【後期計画】

評価指標	交流人口（町関係イベントへの参加者数）	基準値(R5)	目標値 (R12)
		28,000人	90,000人

3 後期基本計画

戦略目標3 つくる 「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」

※ 戦略目標 つなぐ 主な施策7と一体化

主な施策5 新たな行政サービスの導入

ICTを活用した新たな行政サービスを導入し、町民の利便性向上や業務改善を図ります。
また、町で保有する施設などでの新たなテクノロジー活用を推進し、新しい価値の創出に取り組めます。

関連する代表的な計画：川島町DX推進計画

【前期・後期計画】

評価指標	行政事業への新たな技術導入数	基準値(R2)	現状値 (R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		計画策定準備	5件	3件以上	10件以上

主な施策5-6 官民連携の推進

社会情勢の急激な変化に伴う行政需要の多様化に対応するため、民間企業の知見や資源を活かした官民連携によるまちづくりを推進します。多種多様な連携手法に積極的に取り組み、官民の共通課題の達成を図ります。

【前期・後期計画】

評価指標	PPP/PFI (※) 事業検討数	基準値(R1)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		1件	1件	3件	事業実施数 1件

※PPP (Public Private Partnership) とは、行政と民間が連携して「公共サービスの提供等」を効率的かつ効果的に行うこと。

PFI (Private Finance Initiative) とは、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に民間の資金やノウハウを活用し、行政が直接実施するよりも効率的・効果的に公共サービスを提供する戦略的手法。

3 後期基本計画

戦略目標4 そだてる「未来へはばたく人財をそだてる」

【現状と課題】

グローバル化や情報化、少子高齢化などの社会の急激な変化により、従来の価値観にこだわらず、新たな課題に対応することができる人財が求められています。

子供たちが大きな夢や志を持ち、健やかに成長し、豊かに力強く生きていくことができるようにするとともに、だれもが、地域社会に主体的に参画し、多様な人々と協働することで、地域社会や我が国を豊かにしていくための教育・学習機会の充実を図ります。

評価指標	各種講座・教室参加者数	現状値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		651人	733人	720人	790人

3 後期基本計画

戦略目標4 そだてる「未来へはばたく人財をそだてる」

重要施策① 夢を育む新たな学校づくり

子どもたちが夢と希望を持って学ぶことができるよう、学校規模の適正化を踏まえた新しい学校づくりを推進します。また、子どもたち一人ひとりに対応したきめ細かな学習を充実させるため、**9年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育を推進します。**

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町公共施設等総合管理計画、川島町個別施設計画

【前期計画】

評価指標	小中一貫教育校計画の推進	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		検討開始	改修実施	事業計画決定	事業着手

【後期計画】

評価指標	学級での生活が楽しかったと感じている児童生徒の割合	基準値(R5)	目標値(R12)	変更理由
		小学校：91.7% 中学校：91.6%	小学校：95.0% 中学校：95.0%	子ども達の学校に対する満足度を計測する。



R4,R5答申：目標が曖昧。評価の細分化を要検討。

重要施策② 社会を生き抜く人財の育成

未来を見据え、新技術を活用した教育を推進し、社会生活を送るために必要な能力・資質、そして町への愛着を持った子どもを育てます。また、誰もが自らの人生を充実させることができるよう、大人世代の学習機会の拡充にも取り組みます。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町生涯学習推進総合計画、川島町子ども・子育て支援事業計画

【前期・後期計画】

評価指標	埼玉県学力・学習状況調査全学年・全教科平均点以上教科数 (小学校) 4・5・6年2教科 (中学校) 1年2教科、2・3年3教科 合計 14教科	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値(R7)	目標値(R12)
		3/14教科	1/14教科	8/14教科	全教科

3 後期基本計画

戦略目標4 そだてる「未来へはばたく人財をそだてる」

主な施策1 新たな生涯学習の推進体制構築

少子化、高齢化、地域コミュニティの弱体化により、地域社会を維持していくための地域の力が衰退傾向にあります。そのため、地域活動センターや総合型地域スポーツクラブ（※）が核となり、地域内外の団体とのネットワークを構築し、多様な学習、スポーツ、地域活動等を創出するとともに、それらの諸活動を通じた地域づくりに取り組みます。

※ 多世代・多種目・多志向の特徴を持ち地域住民により主体的に運営されるスポーツクラブ。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町生涯学習推進総合計画

【前期・後期計画】

評価指標	総合型地域スポーツクラブ会員数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		116人	221人	180人	300人

主な施策2 生きる力を育む学校教育の推進

児童・生徒一人ひとりに合わせた質が高く、きめ細かい学校教育を推進することで、志を高く持ち、町の未来を支える児童・生徒を育成します。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町立小学校規模適正化計画

【前期・後期計画】

評価指標	中学2・3年生英検4級以上取得率	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		46.1%	34.0%	60.0%	70.0%

3 後期基本計画

戦略目標4 そだてる「未来へはばたく人財をそだてる」

主な施策3 心と体を育む教育環境の整備・充実

教育環境の整備・充実を推進することで、全ての児童・生徒に対し、教育における切れ目ない支援を行い、豊かな心と健やかな体を育みます。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町立小学校規模適正化計画

【前期計画】

評価指標	学校応援団（※）登録者数	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		355人	390人	390人	430人

【後期計画】

評価指標	自分にいいところがあると感じている児童生徒の割合	基準値(R5)	目標値 (R12)	変更理由
		小学校：80.6% 中学校：74.7%	小学校：85.0% 中学校：80.0%	豊かな心と健やかな体を育む指標として自己肯定感を計測する。

※学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織

主な施策4 多様な学習機会の充実

各種団体と連携して「学ぶ楽しさに出会える」魅力的な生涯学習、スポーツ講座や文化芸術に親しむ機会の充実を図ります。また、「今、学ぶべき地域課題」である自然災害、多文化共生、つながりの希薄化など、持続可能な地域社会づくりに資する学習を推進するため、社会教育の拡充を図ります。

関連する代表的な計画：川島町教育大綱、川島町教育行政重点施策、川島町生涯学習推進総合計画

【前期計画】

評価指標	各種事業を実施することができる人財（※）の人数	基準値(R2)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		15人	18人	21人

【後期計画】

評価指標	各種事業を実施することができる人財（※）の人数	基準値(R5)	目標値 (R12)	理由
		22人	25人	R7目標達成済みのため最終目標変更

※講座やイベントの企画・運営を行うことができる人財（地域学校協働活動サポーター）

3 後期基本計画

戦略目標4 そだてる「未来へはばたく人財をそだてる」

主な施策5 子育て支援・児童福祉の充実

子どもを安心して産み育てるための体制整備やサービス・経済的支援の充実を図ります。

また、子育てに関する悩みの相談体制や児童虐待防止のための関係機関との連携などを強化し、児童の健全育成を図ります。さらに、多様なニーズに対応できるよう、保育サービスの向上に向けた保育園の運営方法の検討や保育士の資質向上、就学前教育などに取り組み、保育の充実を図ります。

関連する代表的な計画：川島町子ども・子育て支援事業計画

【前期・後期計画】

評価指標	子育て支援総合センター来館者数 (町内在住者)	基準値(R2)	現状値(R5)	目標値 (R7)	目標値 (R12)
		3,129人	4,560人	7,000人	9,000人